

グループ中期経営計画2018

TBS Group Management Plan From 2016 to 2018

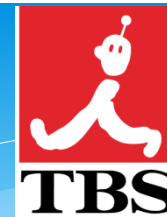
TBSクオリティの確立に向けて



2016年5月11日

《註》本資料にて開示されているデータ等は、本資料の発表日現在の判断や入手している情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

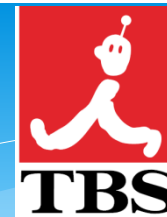
【総括】グループ中期経営計画2015(結果)



(単位:億円)

	計画値	実績	差異
連結売上高	3,750	3,485	△264
連結営業利益	230	171	△58

グループ中期経営計画2015の最終年度に掲げた計画値に対し、売上高は264億円、営業利益は58億円の未達で終了。



①放送事業の強化

(実績) 視聴率で、G帯4位、P帯3位に。

(評価) 満足はできず、視聴率向上がさらなる課題。

②総合メディア戦略の充実

(実績) BS-TBSの完全子会社化や総合戦略局を設置。

(評価) オールメディアの総合戦略により目に見える効果を。



③グループ全体の収益力向上

(実績) **グループ再編や制作工程の効率化を実施。**

(評価) **各施策も道半ば。具体的な成果は次のステージで。**

④新規事業開発による多角的な収益力の向上

(実績) **ベンチャー出資やアジアへのコンテンツ展開を実施。**

(評価) **各施策も道半ば。業績貢献や収益拡大の実現へ。**

グループ中期経営計画2015で掲げた

- ①放送事業の強化
 - ②総合メディア戦略の充実
 - ③グループ全体の収益力向上
 - ④新規事業開発による多角的な収益力の強化
- の重要性は引続き不変。

新中期経営計画では、現在道半ばの各施策を有機的に結びつけ、「目に見える成果」「持続的な成長を実現する基盤整備」に主眼を置く。同時に「TBSクオリティ」を確立していく。



【グループ中期経営計画2018】

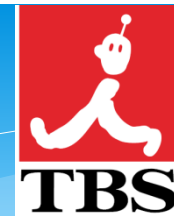
TBSグループ企業理念

「最強」のコンテンツを創り出す、
「最良」のメディア・グループを目指して
～人と社会とつながる企業体へ～

企業理念実現のために・・・

**TBSクオリティの確立
に向けて**

- ◇ユーザーファースト、ユーザーオリエンテッドな総合メディアグループへ
- ◇報道機関としての圧倒的信頼性
- ◇最強のエンタテインメントを提供



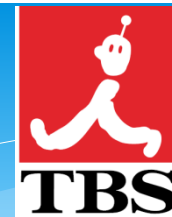
- ◆ TBSコンテンツに、いつでも、どこでも、どんな状況でも接することが出来るよう、視聴者／ユーザーに寄り添ったメディアグループであり続けます。
- ◆ 4KやHDRなど品質にこだわったコンテンツ制作にも取り組み、放送、インターネット配信等も活用、視聴者／ユーザーが望むデバイスへ高品質のコンテンツを提供します。
- ◆ 民放公式テレビポータル『TVer』の普及に尽力。リアルタイム視聴はもちろん、タイムシフト、VOD／見逃し視聴など、視聴者／ユーザーの様々なニーズに応えていきます。
- ◆ メディア環境の変化に迅速に対応した戦略的投資や、グループ再編を継続します。



- ◆高い取材力・制作力を維持しつつ、事件、災害時等のみならず、常に信頼出来る情報を発信し続けます。
- ◆ベルト番組や特別番組を問わず、報道・情報番組強化に一層力を入れ、地上波テレビ・ラジオに限らず、BS・CS・インターネットと連携を強め、全てのメディアに対応してまいります。
- ◆いつでも、どこにいても、受け手が欲しい情報を届ける、未来に責任を持つメディアグループになります。



- ◆ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー等、映像文化の担い手として、最高のエンタテインメントを提供し続けます。
- ◆さらに、マルチユースを念頭においたコンテンツ作り、新しい視点の舞台、イベント等の開発にも取り組めます。2017年春にはステージアラウンドというダイナミックな劇場を豊洲にオープン。また、子供・ファミリー向けアニメ番組『カミワザ・ワンダ』を土曜朝7時に編成いたしました。
- ◆制作するコンテンツには、TBSの伝統を活かし、丁寧なものづくりによって、楽しさ・感動・満足を徹底的に盛り込んでいきます。



2020年

(2016-)2018年

2016年

中期経営計画2018の**初年度**。
捲土重来。制作力基盤の
強化と品質強化の態勢作りを
行います。

中期経営計画2018の**ステージゴール**。目標を確実に実現し、次のステージで更なる飛躍を目指します。

TBSグループは、その仕事に常に高いクオリティを発揮し、広く世の中から支持されることを目指します。

高いクオリティを維持し、利益を上げ、進化・発展・成長を続けるTBSグループへ。

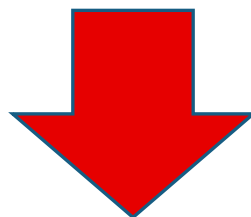
グループ中期経営計画2018達成目標



第一ステージの目標を達成し、更なる飛躍を目指します。

第一ステージ(2018年度)達成目標を以下のようにします。

- 連結売上高 3,730億円
- 連結営業利益 195億円(売上高営業利益率5.2%)



TBSクオリティ確立までの通過点と位置付け

(第二ステージ(2020年度)達成目標)

- TBSクオリティの確立
- 連結営業利益 230億円

グループ中期経営計画2018達成目標



＜参考＞セグメント別連結売上高・連結営業利益

(単位:億円)

	連結売上高	連結営業利益
放送事業	2,250	60
映像・文化事業	1,330	65
不動産事業	150	70
合計	3,730	195



この計画を全力で遂行してまいります。
ご支援いただければ幸いです。

2016年5月11日

株式会社 東京放送ホールディングス